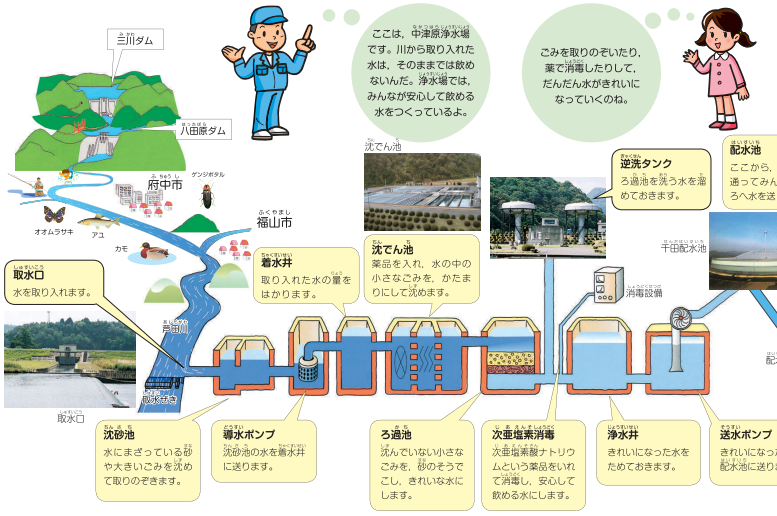
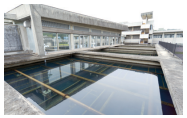
3 きれいな水をつくる（浄水場）



中津原浄水場

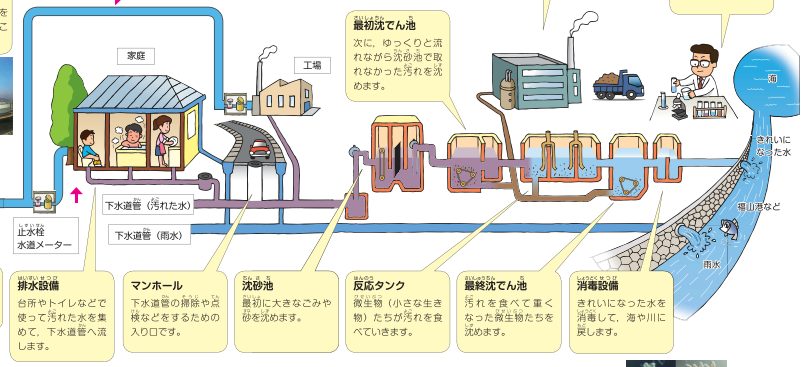
沈砂池


ろ過池

水質試験

4 汚れた水をきれいにする（浄化センター）

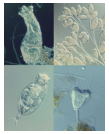
福山市のマンホールのふた



下水道管の工事

高屋川浄化センター

反応タンク


反応タンクで活躍する微生物たち

5 福山の水道・下水道のあゆみ

水道の歴史

水道ができる前は，川の水や井戸水をそのまま使って生活していました。

今から約 400 年前の江戸時代はじめ，福山城主の水野勝成が，土管や木管などで芦田川から蓮池（どんどん池）まで水を引き，城下町で使用していました。この水道を「旧水道」と呼び，その長さは約 14km で，日本で最も古い水道の一つ（全国で 5 番目）でした。

しかし，川の汚れによる伝染病の発生や，人口の増加・産業の発展で大量の水が必要となったため，1916 年（大正 5 年）7 月 1 日，福山市の誕生と同時に，「近代水道」の建設に取りかかりました。そして，1925 年（大正 14 年）11 月，熊野町の貯水池を水源として，自然流下で佐波町の浄水場から市内へ給水を開始しました。

- 1925年(大正14年)……佐波浄水場給水開始
- 1959年(昭和34年)……出原浄水場給水開始
- 1960年(昭和35年)……三川ダム完成
- 1967年(昭和42年)……中津原浄水場給水開始
- 1998年(平成10年)……八田原ダム完成
- 2004年(平成16年)……千田浄水場給水開始
- 2016年(平成28年)……出原浄水場更新事業完成

［昔の生活］

旧佐波浄水場　配水池
(国の登録有形文化財)

下水道の歴史

下水道が整備される前は，し尿は畑などで肥料として使っていたので，水路や河川が汚れることはほとんどありませんでした。しかし，人々が街に集まると，溜まったし尿や汚れた水が原因で伝染病が発生したり，大雨の時に家が水に浸かるようになりました。

福山市では戦災の復興事業と同時に，1952 年（昭和 27 年）に福山駅を中心とした市街地から下水道の整備を始めました。そして 1966 年（昭和 41 年）9 月から汚れた水を浄化センターできれいにして，川や海に流すようになりました。この頃に整備された下水道は「合流式」で，汚れた水と雨水が同じ下水道管を通って浄化センターに流れます。それに対して，近年の下水道は「分流式」がほとんどで，雨水はそのまま水路や側溝から川や海に流れ，生活などに使われて汚れた水だけが下水道管を通って浄化センターに流れます。

- 1952年(昭和27年)……福山市公共下水道工事着手
- 1966年(昭和41年)……新涯処理場（新涯浄化センター）一部供用開始
- 1984年(昭和59年)……芦田川流域下水道芦田川浄化センター供用開始
- 1992年(平成４年)……松永浄化センター供用開始